

<b>Course number</b>	U-LAS70 10001 SJ50				
<b>Course title (and course title in English)</b>	ILASセミナー：人新世の「人間の条件」を考える ILAS Seminar :Thinking “ the human condition ” in the Anthropocene	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Advanced Integrated Studies in Human Survivability Program-Specific Associate Professor,SHINOHARA MASATAKE		
<b>Group</b>	Seminars in Liberal Arts and Sciences	<b>Number of credits</b>	2	<b>Number of weekly time blocks</b>	1
<b>Class style</b>	seminar (Face-to-face course)	<b>Year/semesters</b>	2024・First semester	<b>Quota (Freshman)</b>	15 (10)
<b>Target year</b>	Mainly 1st year students	<b>Eligible students</b>	For all majors	<b>Days and periods</b>	Tue.5
<b>Classroom</b>	21, Yoshida-South Campus Academic Center Bldg. West Wing			<b>Language of instruction</b>	Japanese and English
<b>Keyword</b>	人新世 / 生存可能性 / チャクラバルティ / 人間の条件				
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>2023年の夏はとても暑かった。エアコンなしで過ごすことははたしてできただろうか。また、2020年のコロナウィルスパンデミックにおいては、ステイホームを強いられたのだが、そこでWi-Fiなしで過ごすことははたしてできただろうか。この状況において、人間の生活を条件づけるものとしての環境を、いかなるものと考えたらいいのか。人間の生活が営まれているところとしての環境については、「自然」環境というだけでなく、人工的に構築された状態にある「人工」環境と考えたほうがいいのではないか。だが他方で、人工的な改変が地球のありかたに影響を及ぼし、それが今度は人間の生活の条件そのものを不安定にするという議論がある。私たちはもはや、自然との安定的な関係のなかにあるのではなく、人間のコントロールを超えた、定まることのない惑星的な条件において存在することになっている、という議論である。そのような世界像を提唱した人文系学者の一人が、ディペッシュ・チャクラバルティである。2009年の「歴史の気候」の発表以降、彼はいくつもの論考を発表し、2021年には『惑星時代における歴史の気候』という著作を刊行する。そこで彼は、「人間と自然の境界区分は成り立たない」「人間は、他の諸々の生命体との関わりの中で、惑星において生息する」「気候変動において問われているのは、生存可能性 (habitability) の問題である」といった主張を行うのだが、この主張は、2020年代以降の人文社会科学のあり方を定めたものとして、後々評価されることになるだろう。このセミナーでは、チャクラバルティの論文を読み解き、人新世における生存可能性をめぐるって考えてみたい。</p>					
<b>[Course objectives]</b>					
<p>文献の読解を通じて精読し考えるための基本的な方法を学ぶとともに、現在において人間が生きている世界に関して、哲学的・人文学的な観点から新たな知見を獲得することを目指す。</p>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
第1回					
ガイダンス 授業の概要、進め方について説明する。					
第2回~第4回					
人新世の人文学について、基本文献を読解し、概要を理解する。					
Continue to ILASセミナー：人新世の「人間の条件」を考える(2)					

ILASセミナー：人新世の「人間の条件」を考える(2)

第5回~第14回

チャクラバルティの論考の代表的なものをを読み進める。「気候と資本」(日本語訳あり)、「惑星」(日本語訳なし)などから可能なかぎり読む。

第15回ふりかえり

**[Course requirements]**

None

**[Evaluation methods and policy]**

出席と参加の状況を踏まえた平常点(40点)と学期末レポート(60点)の内容を合わせて総合的に評価する。

**[Textbooks]**

使用する文献は、ウェブでダウンロード可能なものを中心とする。

**[References, etc.]**

(References, etc.)

Introduced during class

**[Study outside of class (preparation and review)]**

参加者は、授業中に配布した文献を読んでおくこと。授業でわからないことがでてきたらそれが何かを自分で整理し、それをもとにして次の授業で質問すること。

**[Other information (office hours, etc.)]**